

3. 「治療のアシスタントをする際における小児の取り扱い」

もうり小児歯科医院 D.H.

石 橋 美 佳

今、医療は治療から予防管理へと変わろうとしています。しかし、歯科に来院する子供の多くはう蝕などの疾患をかかえていますし、保護者の目も治療だけに向けられています。歯科衛生士は予防の担当者ですので、ユニット上の子供とかかわる間も、家庭での口腔管理能力を身につけさせる努力を続けたいものです。

もちろん、歯科衛生士に限らずチェアサイド・アシスタントの役割は、歯科医と協力して処置が安全で確実に、しかもスピーディーに行えるように配慮することです。

ところで、成人でさえ歯科を恐いと感じる人が多く、受診経験のない幼い子供達が、大人の影響を受けて歯科治療を恐がるのは無理のないことなのでしょう。また、非協力のために、強制的に治療を進められた子供達もいます。

私達の対応によって、子供が感じる歯科のイメージを楽しいものに変えてあげたいものです。ことために、Tell-Show-Doなどで、子供に治療の内容を理解させるとともに、私達も患児を理解することが大切です。患児の表情や、手足の動き、呼吸のリズム、泣き声などを観察したうえで、叱ったり、励ましたり、勇気づけの言葉をかならずかけます。指先の小さな緊張が、泣きたい気持ちを我慢している表現であるかもしれません。子供にできるだけ受身の気持ではなく、「自分が頑張って虫歯をやっつけた！」という気持を持たせるようにします。処置後は、子供の協力で治療が完了できたことを認めて、かならずほめて自信へとつなぎます。

その結果、治療が楽しみになっている子供も少なくありません。できるだけ、このような子供達を増やしていきたいものです。

今回、以上の様な考えのもとに、チェアサイド・アシスタントとして活動する際に、私達が配慮している事柄を診療の流れにそってお話します。